

日本精神分析協会

第43回 学術大会プログラム

会期:2025年6月7日(土)~6月8日(日)

会場:TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター(東京都新宿区市谷八幡町8番地)

目次

目次.....	1
会長あいさつ.....	2
クリニカルグループ.....	3
講演と討論.....	4
パネル.....	5
精神分析的療法家センターの企画.....	8
候補生の会の企画.....	8
一般演題.....	9

会長あいさつ

日本精神分析協会学術大会は第43回を迎えますが、昨年第42回大会から新しい形をとることに踏み切りました。すなわち、協会関係者だけでなく、一般の守秘義務をお持ちの臨床家の方々にも聴衆としてご参加いただけるようにいたしました。この試みは大変好評を得て、定員以上のお申し込みをいただきましたので、今年はもうすこし大きな会場を用意し、皆様のご要望にお応えできるようにいたしました。

この試みは、それまで日本精神分析学会に頼ってきた協会関係者の学術発表を、協会が運営する大会で行うことにより、より精緻な議論につなげていこうとすることがひとつの目的でした。

さらにこの試みは、もっと大局的な見地からも企画された側面があります。精神分析的な考えかたは、ひとりひとりの人生の歴史を思いめぐらす視点と、臨床状況での関係性に目を向けてそれを理解し、意味あるものとして使用するスタンスをもたらすことを通して臨床実践を豊かにします。この精神分析的な考えかたが意味ある形で維持されるには、精神分析的訓練を積んだ精神分析家の存在が欠かせません。私どもの協会は、分析家の訓練を担うIPA加盟の協会で、今年1月現在、46名の精神分析家の会員を擁しています。これは諸外国と比べると人口に対して大変少ない数字であり、私どもは自分たちのプレゼンスをこの国の社会のなかで増大させるように努めたいと思っています。つまりこの試みは、日本の臨床家の方々に、私たちの活動に親しんでいただくための試みです。

この大会では、協会会員、候補生、そして協会の関連機関である日本精神分析協会精神分析的療法家センター所属の療法家と研修生が登壇いたします。このプログラムにはお気づきのよう、普通の学会のように所属の勤務先ではなく、協会でのステータスのみが記されています。ひとりひとりの個人として精神分析とのつながりの文脈のみで紹介されているともいえるでしょう。

精神分析的訓練を媒介につなっている協会関係者がどのようなことを考え、どのような学術的成果を上げているのか、皆様にお聴きいただき、忌憚ないご討論やご意見を頂戴できましたら幸いに存じます。

そしてこの大会にご参加されることをきっかけに、精神分析と本協会へのご関心とご理解を深めていかれることを期待するものです。

2日間という短い時間ですが、どうかこころゆくまでお楽しみいただけたらと存じます。

日本精神分析協会会長 藤山直樹

クリニカルグループ

2025年6月7日（土）

13:00～15:15

司会：岡本亜美（会員） 事例提示：中甫木くみ子（候補生） 討論：小川豊昭（会員）

司会：岩永洋一（候補生） 事例提示：小林要二（会員） 討論：藤内栄太（会員）

司会：衛藤暢明（会員） 事例提示：藤巻 純（候補生） 討論：岡野憲一郎（会員）

司会：坂下優二（候補生） 事例提示：岡田淳子（会員） 討論：藤山直樹（会員）

司会：日下紀子（精神療法家） 事例提示：山崎孝明（研修生） 討論：関 真粧美（精神療法家）

15:30～17:45

司会：鈴木菜実子（候補生） 事例提示：田中克昌（会員） 討論：鈴木智美（会員）

司会：宮田善文（会員） 事例提示：岡村斉恵（候補生） 討論：吾妻 壮（会員）

司会：中村曜子（研修生） 事例提示：縄田秀幸（精神療法家） 討論：高野 晶（精神療法家）

司会：中村浩平（会員） 事例提示：北山 修（会員） 討論：清野百合（候補生）

司会：吉村 聡（会員） 事例提示：西 見奈子（会員） 討論：妙木浩之（会員）

講演と討論

2025年6月8日（日）

9:00-10:25

講演と討論1 「欲求と苦悩：他者性との邂逅について」

講演：吾妻 壮（会員）

討論：古賀靖彦（会員）

司会：藤山直樹（会員）

日本文化は、伝統的な神道や仏教の影響を受け、西洋文明とは明らかに異なる背景を持っている。西洋で生まれ発展した精神分析に対する日本人の向き合い方を考える上で、アジア的な世界観を鑑みすることは重要である。西洋という他者との邂逅は、多くの日本人の精神に少なからぬ衝撃を与えてきた。本発表で考察したいのは以上のことである。

10:35-12:00

講演と討論2 「死の欲動と脳内免疫細胞ミクログリア：

精神分析と脳科学との接点」

講演：加藤隆弘（会員）

討論：岡野憲一郎（会員）

司会：池田暁史（会員）

医学生時代のフロイトは最先端の神経解剖実験に没頭する基礎研究者であった。精神分析を創始したフロイトは脳科学に別れを告げたが、精神分析黎明期に密かにスケッチした無意識の神経回路モデルが死後に明らかになっている。精神分析家かつ精神免疫学者である演者は、フロイトが晩年に提唱した「死の欲動」の生物学的起源が脳内免疫細胞ミクログリアではないかという仮説を提唱している。本講演では精神分析と脳科学との接点解明による未来の精神分析を展望する。

パネル

2025年6月8日(日)

12:50-14:50

パネル1「自殺と精神分析」

企画者 : 衛藤暢明 (会員)

司会者/通訳 : 縄田秀幸 (精神療法家)、庄司 剛 (候補生)

パネリスト : Rachel Gibbons (英国精神分析協会会員)、衛藤暢明 (会員)

指定討論 : 高野 晶 (精神療法家)、原田康平 (会員)

自殺の問題は、Freud, S.以来、精神分析の視点からさまざまに論じられてきた。本企画では Rachel Gibbons 氏 (英国精神分析協会) を迎え、自殺と精神分析について多面的に論じたい。

パネル2「先生転移と見るなの禁止：日本語臨床と精神分析」

企画者 : 加藤隆弘 (会員)

司会者 : 須藤将司 (候補生)

パネリスト : 加藤隆弘 (会員)、岡村斉恵 (候補生)

討論者 : 北山 修 (会員)、鈴木菜実子 (候補生)

教師のように治療者が「先生」と呼ばれる日本では、治療関係に「先生転移」「先生逆転移」の存在を想定できる。日本人特有の「見るなの禁止」が働きうる、この事象の役割、文化的含意、取扱いについて議論する。

パネル

2025年6月8日（日）

15:00-17:00

パネル3「二元論を超えて」

企画者 : 岡本亜美 (会員)

司会者 : 藤巻 純 (候補生)

パネリスト: 岡田淳子 (会員)、原田康平 (会員)、岡本亜美 (会員)

討論者 : 小波藏かおる (会員)

精神分析はセクシュアリティの学問であり、女性性・男性性をはじめとした二元論を超えた実践であることを新たな枠組みとともに提示することは現代において急務だろう。その可能性を臨床素材を用いて検討したい。

パネル4「無意識は存在しない？」

企画者 : 小川豊昭 (会員)

司会者 : 日下紀子 (精神療法家)

パネリスト: 藤山直樹 (会員)、吾妻 壮 (会員)、小川豊昭 (会員)

討論者 : 清野百合 (候補生)

オグデンは、最近の論文で「無意識というものは存在しない」と挑発的な主張をしている。確かに現代の臨床では古典的無意識を扱わない。それではHere and nowは、ビオンの‘O’は、トラウマの臨床は、無意識と違う何かか。

パネル

2025年6月8日(日)

15:00-17:00

パネル5「異物・他者と精神分析的思考」

企画者 : 小林俊三 (会員)

司会者 : 小林俊三 (会員)

パネリスト: 福本 修 (会員)、浅田 護 (候補生)

討論者 : 皆川英明 (会員)、朝枝清子 (候補生)

乳児が乳房の中にあるミルク、父親のペニス、次の子ども等との共存を容認できなければ、三角空間が展開せず情緒的に成長することができない。集団状況では民主主義の危機とも連動する事態を改めて考えたい。

精神分析的療法家センターの企画

2025年6月8日（日）

12:50-14:50

「精神療法における身体性：対面法・背面椅子式・寝椅子それぞれ」

司会：高橋靖恵（精神療法家）、黒崎和泉（研修生）

パネリスト：奥寺 崇（会員）、尹 成秀（精神療法家）、鍛冶美幸（研修生）

討論：河野恵理（精神療法家）

そもそもフロイトはこころが身体に動員されると考え、またこころが身体に顕れることについて考えた。精神療法において身体性がどのように交流の場に現れるのか、そして何を知らせるのか、体勢の3種の様式という精神療法ならではの切り口で検討してみたい。

候補生の会の企画

2025年6月8日（日）

15:00-17:00

「『精神分析を受けること』について考える～先達との対話を通して～」

司会：北村麻紀子（候補生）、豊川浩司（候補生）

パネリスト：岡村斉恵（候補生）、伊藤幸恵（候補生）、岩永洋一（候補生）

精神分析を受けることは精神分析家になるために必須であるが、その体験は開かれず未知と感じる人が多い。本企画では、IPAの訓練分析の歴史、独立学派の分析家と訓練分析、先達である前田重治の分析体験を紹介し、フロアとの活発なディスカッションを試みる。

一般演題

2025年6月8日(日)

12:50~13:30

演題1 「膜のないゼリーからシャム双生児へ：積み重ならない思考の中での罪悪感の行方」

発表：朝枝清子（候補生）

司会：高野佳也（会員）

演題2 「ナルシシズムにおける対象/環境」

発表：岡本亜美（会員）

司会：池田政俊（会員）

13:30~14:10

演題3 「沈黙の豊穡 — デカテクシスの恐怖を越えて — 」

発表：宮田善文（会員）

司会：相田信男（会員）

演題4 「スキゾイド的に引きこもり続けた自己愛男性の精神分析過程」

発表：和田良久（候補生）

司会：権 成鉉（会員）

14:10~14:50

演題5 「心の中の母親を手放さない女性について」

発表：浅野美穂子（候補生）

司会：藤内栄太（会員）

演題6 「『ここで経験をした』という患者の言葉をめぐって」

発表：鷺谷公子（会員）

司会：吉村 聡（会員）

一般演題

2025年6月8日(日)

15:00~15:40

演題7 「精神分析過程を考える：アルペイオスからセレンディピティへ」

発表：松木邦裕（会員）

司会：岡田暁宜（会員）

15:40~16:20

演題8 「逆転移、逆転移夢にみる男性患者からの性愛的な転移の変遷」

発表：加茂聡子（会員）

司会：津田真知子（会員）

16:20~17:00

演題9 「ある人格障害の女性との精神療法過程」

発表：岡野泰子（精神療法家）

司会：飯島みどり（精神療法家）

ステータスについて

(会員) 当協会の会員である精神分析家

(精神療法家) 当協会が独自に認定する精神分析的な精神療法家

(候補生) 精神分析家を志す訓練生

(研修生) 精神分析的な精神療法家を志す訓練生

詳しくはホームページもご覧ください <https://www.jpas.jp/ja/>